



上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく すこやかな 上矢作の子

大 船 山

第 17 号

令和 5 年 12 月 26 日

ホムパ・ジアドリス <http://www.ena-gif.ed.jp/kamayahagi-e/>



節目の振り返りから見えてくる自身の成長と次に目指すもの

校長 細江 幸次

今年も残り数日となりました。学校も本日、2学期終業式を迎えました。例年よりも暑い夏の最中（さなか）に2学期が始業し、規制のない通常の学校生活を送ることができるようになり、計画していた学校行事もすべて実施することができました。ご家庭、地域の皆様には上矢作っ子たちが日常で培った力を行事等の力試しの場で十分発揮できるように陰日向になって支えていただき、ありがとうございました。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

古くから用いられている諺（ことわざ）のひとつに「一年の計は元旦にあり」があります。これは、「物事を始めるには最初にきちんと計画を立てることが大切だ」という意味です。この計画を立てるためには、自分自身の現在地を的確につかむ必要があります。学校で行っていることで言えば、「反省・振り返り」がこれにあたります。これによって、自分自身が次に目指すもの（目標）がはっきりとしてくるはずです。

目標を掲げるメリット

- ・ 目標があることにより、やることが明確になる。
- ・ ゴール地点（目標）から逆算して考えることで、今やること、次にやることのステップが見えてくる。
- ・ 脳科学の観点から、人は問題を認識し、関心をもつことで脳の働きが変わる。目標が明確になると、無意識化の中でも目標を達成する方法を考えるようになる。…「人間というものは、目標があると、それに向かって努力する、という不思議な動物である」（経営コンサルタント 一倉定）

【参考 「税理士 瀧川真吾のブログ」】

このようなことは一般にもよく言われていることですが、残念ながらどうしても「うまくいく人」と「うまくいかない人」が出てきてしまう現実があります。私は、その原因の一つに「目標を意識して行動する人」と「目標を立てるだけの人」の違いではないかと思っています。目標を意識している人は一日の終わり、取組の節目（中間、終わり等）に自分の実態を確認し、次にやるべきことやいつまでにやれるようにしておくべきことを明確にしている人だと考えます。人間の一日の歩みは小さなものですから、振り返りをしたところで自分の成長を確認することはできないかもしれません。目標倒れになってしまう人は恐らくこんなところでつまづいているのかもしれない。その意味でも、2学期の終わり、年末・年始という節目で振り返りをして次の目標を立てることはより大切になってきます。特に、成長著しい義務教育期の子どもたちにとって、このことは特に大切にしなければならないことではないかと思います。年末・年始はご家族で過ごす時間が普段よりも多くなると思います。この時期に「自分の成長の確認と次に目指すもの」について語り合っただけならいいなと考えています。

■お知らせ

3つのライオンズクラブ様（恵那、恵那南、岩邑）よりアップルTV（2機：5万円相当）のご寄付をいただきました。これはタブレット上の画像をTV画面に映し出すものです。これによって特別教室を含む全教室での授業でタブレットを用いた学習活動がとてもしやすくなりました。有効に活用させていただきます。